

■ 測定の妥当性の確認

信頼性は、尺度が実際に測定している特性をどの程度精度良く測定しているかを考えるものにすぎず、測定したいと実施者が考えているものを測っているかどうかはまったくお構いなし

→ 測定したいものを測定しているかを考える概念。妥当性

妥当性：尺度が実際に測定している特性が、実施者が対象としたい特性をどの程度きちんと捉えているかを考える概念で、テスト得点または各項目の得点が、測定したい特性を正しく反映している程度を評価する指標。

内容妥当性：対象としたい特性を測定するものとして、どの程度適切に見えるかを評価。

論理的妥当性…専門家による判断

表面的妥当性…みたくれの良さ

基準関連妥当性：外的な客観的基準との関連の強さを評価。

予測的妥当性…外的基準が後になって観測される。職業適性検査→営業成績

併存的妥当性…外的基準が同時に観測される。健康意識度検査→コレステロール値

構成概念妥当性：対象としたい構成概念に関する解釈を支持する根拠の強さを評価。

収束的妥当性…似たような概念と正の相関がみられる。

弁別的妥当性…関連のない概念とは相関が見られない。

因子的妥当性…因子分析をすると、似たような概念は同じ因子に、関連のない概念は他の因子にまとまる。

いずれにしても、心理・教育測定は構成概念の測定であり、便宜上、歴史上、いろいろなレベルがあるが、妥当性の確認は構成概念の確認という作業に終始する。

→ 妥当性の種類がよくわからなければ、「〇〇妥当性」などと言わずに、ただ「妥当性の確認」と言えばいい。

■ 測定の信頼性と妥当性の関係

信頼性が低ければ、妥当性は低い：精度の低い尺度で測定しても、何もまともなことは言えない。

妥当性が高ければ、信頼性は高い：測定したいものを適切に測定するためには、対象を精度良く測定していることが必要である。

信頼性は妥当性の一部（必要条件）

信頼性が高いからといって、妥当性が高いとは限らない。

一生懸命他のことを測っているかもしれない

ex) 英語で書かれた「社会」の問題。信頼性が高かったとしても、社会のテストとしての妥当性はない。

→ 自分が使用する尺度が、どのような集団を対象に作られたものかを知る必要あり。

同じような集団に対してなら、そのまま用いても構わないが、異なる対象に対して実

施するときは，妥当性を確認する必要がある．

ほどよい項目数で，ほどよい信頼性係数の大きさに，妥当な測定をするのが肝要．
とはいえ，よく出回っている既存の尺度の項目はいじらないほうが賢明

← 比較可能性の確保

手元のデータの普遍性の問題